

教師用 指導案

1. テーマ・授業名

テーマ2 パラリンピックスポーツ

授業3 「ゴールボールをやってみよう！」

2. 授業の目標

- ・ゴールボールを体験することで、パラリンピックスポーツを身近に感じ、興味を持つ。
- ・視覚に障害がある人たちも楽しめるように工夫された競技を体験し、目が見えない状態の中で、様々な工夫によりできることが増える感覚を知り、相手の立場に立ったコミュニケーションの大切さについて考える機会となる。
- ・ゴールボールの試合で異なる役割を担うことで、パラスポーツを「みる」「する」「支える」を経験する。
- ・障害の疑似体験や、障害がある人をサポートする役割を体験しながら、「できないこ」ではなく、「できること」、また「できるようにする工夫」に注目する姿勢を身につける。
- ・ゴールボールの体験を通して、自分なりにゴールボールの魅力を考えられるようになる。

3. 本時の位置づけ

- ・総合的な学習の「福祉」の授業での活用。
 - ・中学校では、道徳の「他者の理解」「共生社会」などの視点における事例学習として活用。
 - ・保健体育のカリキュラムに盛りこむことも可能だが、その際、評価の視点を新たに設ける必要がある。
- ※その他、学級活動や学年集会などの時間を活用してもよい。

4. 指導の留意点、工夫点

- ・プレーヤーとして障害の疑似体験をするだけでなく、パラスポーツを見たりサポートしたりする側の経験もさせ、障害理解を深める活動につなげられるようにする。
- ・本時の前に、「映像資料：ゴールボール」を見せて、大まかな試合の流れやルールを理解させておくとうい。映像資料には、コートの作り方や、ボールの投げ方、受け方なども紹介されている。
- ・ゴールボールは比較的体験が容易であるが、見えない状態に慣れていない生徒たちが、けがをしないような安全への配慮が必要である（床にものを置かない、めがねなど身につけているものをはずすなど）。
- ・見えなくても、集中して音を聞けばボールの行方がわかったり、コートテープを触ることで位置が確認できたりする体験を通して、ゴールボールの魅力や、ユニークな面を知る。
- ・プレー中は声を出して応援してはいけないなどのゴールボールのルールを理解し、工夫してスポーツを楽しむよさを体感できるようにする。
- ・「ボールの方向に気づくには、試合中はどのような状態だとよいか」「ぶつからないためにはどうしたらよいか」など、できるようにするための工夫ができていたら、積極的に認めていく。
- ・静かにできない時などのペナルティを厳しく行うなど、難度を上げていってもよい。

※詳細は「かんたん！ゴールボールガイド」（公財）日本パラスポーツ協会発行

http://www.parasports.or.jp/about/referenceroom_data/competition-guide_03.pdf

5. 準備物

・授業用シート（2-3） 生徒用ワークシート（2-3）

・映像資料：ゴールボール

・ボール：転がすと音が聞こえるボール：コート1面につき1個

※ゴールボールの公式球の用意が難しい場合は、バスケットボールやバレーボールにスーパーなどのレジ袋をかけて、音が出やすいようにするとよい（映像資料：教師用参照）。

・アイマスク：手ぬぐいなど、目がかくせるものならどのようなものでもよい

・コーン（コート1面につき4本）：ゴールを示す

・得点板、笛、ビニールテープ、布ガムテープ、たこ糸など

・授業用シート12枚目をコートの数に合わせて印刷しておく。

【競技説明】



【教師用映像】



動画でコートの準備の仕方や、指導上の留意点を説明しています。

【教師用映像】ゴールボールをやってみよう！（6'55"）をご覧ください。

〈展開案〉※【 】内は経過時間

時 間	学習活動（引き出したい生徒の言葉）	指導上の留意点・配慮事項（教師の活動）	準備物／教師参照物
導入 (5分) 【5分】 目標：2分 ルール説明：3分	(1) 本日の目標と、授業の内容を確認する。 (2) ゴールボールの基本的なルールを理解する。	(1) 【目標】 ①ゴールボールの体験を通して、様々な「できるようにする工夫」に触れる。また、相手の立場に立ったコミュニケーションの重要性を理解する。 ②ゴールボールの魅力について説明できるようになる。 【本日の授業の流れ】 ゴールボールについて知る→準備体操→練習→試合→振り返り (2) ・実際の競技では、投球する選手が相手に不利になるような音や声を出したとみなされると反則となるが、授業ではスポーツを楽しむことが大切なので、厳しく反則を取らなくてよい。	・授業用シート（2-3） 【教師参照】 ・教師用ハンドブック ・映像資料： ゴールボール
準備体操 (5分) 【10分】	準備体操を行う。	・肩や首、指を念入りにストレッチしておく。	
展開① (7分) 【17分】	【練習…投げる、止める練習】 (1) 危険なくプレーできるように、ボールの扱い方を知る。 ・投げ方、止め方 ・渡し方	(1) ・ボールを止める時は、突き指をしないようにすることを注意する。ボールはどのように止めても構わないが、中腰など動きやすい姿勢で待たせる。	授業用シート（2-3） 【教師参照】 ・教師用ハンドブック ・映像資料： ゴールボール

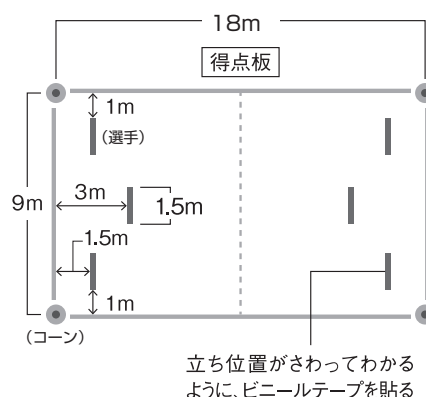
時間	学習活動（引き出したい生徒の言葉）	指導上の留意点・配慮事項（教師の活動）	準備物／教師参照物
目安 ボールの投げ方 止め方：2分 試合の方法の説明： 5分		・ボールを渡す時など、相手が見えていないことを忘れず、十分に注意を促す。 ・ボールの受け渡しの際、配慮の意義を理解させるために、なぜそうするかなどの問いかけを行いながら進めるのもよい。	・授業用シート（2-3） 【教師参照】 ・教師用ハンドブック ・映像資料： ゴールボール
展開② (20分) 【37分】	【試合を体験しよう】 試合時間4分、交替時間1分で、試合を行う。 ・教師は審判（生徒に担当させてもよい） ・各役割を交替で分担し、試合を行う。 選手：試合をする。 ボール係： ボールを拾ったり、選手に渡したりする。 得点係： 点数を確認する。 授業用シート p.12 の「Quiet Please!」を出す 実況係： 試合の状況を選手にわかるように伝える。	役割を理解させた上で試合を行わせる。 試合のルール →後述（P. 4 参照） 係のつくり方 →後述（P. 4 参照） 指導のポイント ・試合中、静かに観戦できたか。 ・集中してボールの音を聞いてキャッチできたか。 ・友達への声かけができたか。 ・的確な実況ができたか。	
振り返り (8分) 【45分】	ゴールボールの魅力を発表する。 〈キャッチコピー例〉 「聴覚をとぎすませば、身体が動く」 「サイレントの中に熱気がみなぎる」 「見るのとやるのとでは大違い」 「パラリンピアンのごさを実感」	・この競技を体験してどう感じたかを言語化することで、単に「楽しかった」ととどまらない感想を共有させる。 ※単に文章でまとめるのではなく、魅力をキャッチコピーとして表現するなど、クラスの状態に合わせて工夫をする。 ・（競技体験を他者理解・共生社会に結びつける場合）障害の疑似体験をして感じたことを踏まえ、視覚に障害がある人に出会った時に、どんな声かけをしたらよいか、その際に何に気をつけたらよいかを考えさせる。 ・うまく書けていない生徒には、実際にプレーして感じたことや、目が見えない中でのプレーで注意したことに注目させるなどの助言を行う。 ・時間がない場合は口頭での振り返りとし、ワークシートは宿題にしてもよい。	・生徒用ワークシート（2-3）
まとめ・片付け (5分) 【50分】	・発表する。 ・協力して片付けをする。	・数人に発表させた後、まとめる。 ・用具の片付けも協力してできるようにする。	

■試合のルール

- ・ 審判は、笛を短く3回吹いて「プレー」と言って始める。先攻後攻は適宜決めてよい。
- ・ ボールを投げて、相手チームが止めて取った場合は、プレーを止めずにそのまま取った人が投げる。（本当の試合のルールは、10秒以内にコートセンターラインまたはサイドラインを超えるように投げる。）
- ・ ゴールしたら、審判は「ピッ、ピッ」と笛を短く2回吹き、「ゴール」と言う。
- ・ ゴールに入った、サイドアウトしたなど、プレーが切れた時は、審判は1回笛を吹く。
- ・ 全員に投げる機会があるように、チーム内で次にボールを投げる人を交替する。
- ・ 転がさずに投げる、目隠しをはずす、大声を出すなどの反則行為の際、審判は笛を1回吹き、相手ボールにする。
- ・ 試合時間の設定もクラスの状況に合わせてよい。全員がボールを投げたら交替などとする 것도できる。
- ・ 試合が始まったら静かにするように注意する。声を出したり、音を出したりしての応援はできないなどのルールは、ここでも確認しておく。

■コートのつくり方、選手の立ち位置

- ・ コートのサイズはバレーボールと同じ（体育館のバレーコートのラインを使用可能）。
 - ・ コーンはゴールを示すところだけに立てる。コーンとコーンの間を通ったら得点。コートの広さ、選手の立ち位置などは厳密にしなくてよいが、位置がわかるようにしたい。生徒同士がぶつからない位置、またボールを転がした時に、前の選手に当たらないように安全面で配慮する。
 - ・ 実際の試合では、テープの下にタコ糸を入れているが、タコ糸を入れずに、テープの中央部を折り、さわってわかるように貼るだけでもよい。
- ※人数が多い時はコート数を増やすが、プレー中ボールの音が聞こえるようにコートを離す。
- ※審判は生徒に担当させ、教師はコートの間に立って全体を見わたすことで、生徒への技術指導と安全指導を行ってもよい。



■係のつくり方

- ・ 選手以外にも係をつくり、常に全員試合に参加している状態を保つ。
 - ・ 試合する選手の人数（実際は3名）は、クラスの数によって調整してよいが、お互いがぶつからないように、コートの幅を広くとり、十分に間を空けるように注意する。
 - ・ 係については、クラスや1チームの人数に合わせて、つくり方や人数配分を工夫するとよい。
- 〈審判〉「プレー」のかけ声で試合を開始する。笛で試合を止める。
- 〈ボール係〉ボールを拾ったり、渡したりする。（ゲームが止まった時に行動する）
- 〈得点係〉得点をつける。「Quiet Please!（お静かに）」を宣言する。
- 〈実況係〉試合が止まった時に、選手に試合の展開内容を伝える。

■実況係を活用してゲームを成立させる工夫

試合における実況係の発言は選手の「目」となるので、実況係は大きな声でしっかりと実況できるようにしたい。

【実況の例】

「AくんのボールがBさんの横を通り抜けてゴールしました。」

「Cさんのさわったボールがサイドラインを割りました。得点にはなりませんでした。」

「赤チームに点が入り、3対1で赤が勝っています。」

■ボールを正しい方向に投げるためのルールの工夫

- ・ ボール係は選手をポジションまで連れて行ってよい。
- ・ ボール係が一度だけどこに投げるかを伝えてよい。
- ・ 得点が決まるごとに、一度だけアイマスクをはずしてゴール位置などを確認するショートタイムを設ける。

■安全面での配慮

- ・ 体育館の床のめくれなどがいないか確認をしておく。
- ・ 体育のジャージや長袖、長ズボンなどを着用する。
- ・ 味方同士の衝突や、突き指には十分注意する。